

今日の説教のポイント<創世記50章15~21節>

①憎しみからの解放は、神という存在を覚える中でなされて行く。

「ヨセフの兄弟たちは、父が死んでしまったので、ヨセフがことによると自分たちをまだ恨み、昔ヨセフにしたすべての悪に仕返しをするのではないかと思った」(15)。弟ヨセフをエジプトに奴隷として売った兄たちは、自分がしでかした罪にいつまでも苦しみ、ヨセフに報復されるのを恐れていました。その両者の間で真の和解が成立するには何が必要だったのでしょうか？ 兄たちは言いました、「あなたの父の神に仕える僕たちの咎を赦して下さい」(17)。ヨセフも言いました、「恐れることはありません。私が神に代わることができましようか」(19)。共に、神様のことを考えています。ヨセフとその兄弟たちの「上」、または「間」に立ち給う神様のことを考える中で和解は実現して行くのです。

②悪しきことをも善に変えて用い給う神様。このことに希望がある。

「あなたがたはわたしに悪をたくらみましたが、神はそれを善に変え、多くの民の命を救うために、今日のようにして下さったのです」(20)。聖書の神様は正しい者をよしとされるだけではなく、悪しき者をも見捨てず、そのしでかした悪しきことを用いて善きことに変えて下さる神様なのです。私たちが自分自身のどうしようもなさや打ちのめされても、なお希望を持てる理由がここに 있습니다。すなわち、私たち自身には希望はないけれども、この神様に希望があるのです。

③兄たちがヨセフにひれ伏す夢は二度成就する。その二度目が大事。

ヨセフはかつて、兄たちが自分にひれ伏すことになる夢を見てひんしゆくを買い、それでエジプトに売られることになりました(37章)。しかし、ヨセフの所に食料を買いに来た時に、この夢は事実となりました(42:9)。しかし、さらに深くこの夢が成就する時が用意されていたのです(50:18)。最初に見た夢は、ヨセフと兄弟たちが「本当に仲直りする時」を予見するものであったのです！ 神様のなさり方は不思議です。しかしそれは、私たちの思いを越えた恵みを含んでいる不思議です。この恵みの神様を信じて歩む者となる時、心に平安が訪れるのです。